

新学長に



①

大学への期待が高まる一方、多くの課題が山積している。デジタル変革(DX)や国際化、研究開発力の向上、収束が見えない新型コロナウイルスへの対応もある。こうした対策を踏まえて、どう大学としての個性を發揮するのか。新年度に就任した各大学トップに変革の方針などを聞いていく。

トップの任期が6年 — 策定中の基本理念間と他の国立大学と比に「ダイバーシティー」長い東京大学。藤井輝夫総長は理事時代に「大学が社会変革を駆動する」仕組みの整備に関わり、今度は「我々が具体的な成果を創り出す」と強調する。6年間の始動に当たって意気込みを尋ねた。

東京大学 総長

藤井 輝夫氏



「対話と共感」学内外変革

「インクルージョン」仕事をするのに最適な体制を考えた結果だ」
過半数を女性にしました。

「さまざまな意見に感」は学内外に向けたもの。学外からは産業界の協創や寄付などで資金を集めて成果を出し、それを対話により示して共感を得て、次の大きなサイクルにつなげていく」

「オンラインによる教育・研究効果を狙う」

「グローバルフェロー制度」も対話と共感がカギとなりますね。

「コロナ禍でリモートワークに慣れたのを機に、著名な外国人研究者に単位付与を伴う講義や研究指導、セミナーにオンラインで競争が激しい中、基礎研究の国際戦略として活用します」

「人的ネットワークで、自己努力で先行投資することでの理解を促したい。(同装置があれば、来日が必要なが建設される) 岐阜県でかなり多忙でも協力 飛騨市は大学の購入

ふじい・てるお 93年(平5) 東大院工学系研究科博士課程修了、同年東大生産技術研究所客員助教授。07年教授。15年所長。18年副学長。19年理事・副学長。東京都出身、57歳。

に加え、ふるさと納税の活用も必要だ

「東大関連のベンチャーは累計400社以上で起業も年30-40社あります。学生メイン投資資金、インキュベーションの増加に驚きです。『学生の間には』社学が多様な形で背中をのたために何かした押ししていきたい」

記者の目

大学の手本ノウハウ伝授を

大学債発行などの新機軸は、なかなか他大学でまねできないものだ。総長・理事の過半数を女性にするという決断も国立の総合大学で先駆けとなった。ただ、こうした取り組みを東大だけにとどめるのは惜しい。学外との対話と共感でノウハウを伝え、大学の手本として社会の期待に応えてほしい。(編集委員・山本佳世子)